

”ヒト”の価値を最大化するためのデータ戦略

スカパーJSAT株式会社 北原茉那美

課題点

現在の人事部は、

- 目の前の事務処理を優先して改善活動に手が回っていない
- 思考する余裕・時間がない
- 経営層から言われたことを実行する「事務局人事」

あるべき姿・課題解決提案

経営資源の一つである“ヒト”の価値を最大化させる、戦略人事になるためには、データという裏付け・根拠をもって考え・判断し、ボトムアップで経営陣に発信できることが重要。
データで語る戦略人事となるために必要な、データ戦略を整理する。

当社の現状とデータ戦略の整理

ステップに沿って当社の現状を整理し、目的達成のために必要なアクションを明らかにする。

【データ戦略の整理のための4ステップ】

- Step1** どんなデータが必要かリストアップする
- ✓ 目的を達成するためにどんなデータが必要かリストアップ
- Step2** データの有無、状態をチェックする
- ✓ 必要なデータが存在するのか
 - ✓ 構造化データ/非構造化データ
 - ✓ データ品質状態をチェック

Step3 データに優先順位をつける

- ✓ データ品質の評価
- ✓ 目的との関連度
- ✓ 優先度をKPIで評価

Step4 何から取り組むべきか定める

- ✓ 整理した結果、当社はどうするのか判断する
- ✓ 費用対効果やデータ取得の障害の有無からも判断する

整理の結果

上記ステップを用いて表.1のように整理し、データ品質の傾向を分析し、必要なアクションを定める。

表.1 データ品質の評価・優先順位付けの例

データ種類	正確性	完全性	一貫性	一意性	適時性	効率性	データ品質 不適合数 ※1	目的との 関連数 ※2
勤怠・給与	○	△	○	△	△	△	2	2
評価・等級	○	○	○	○	○	△	0.5	4
スキル・資格	×	×	△	△	×	×	4	3
健康情報	△	△	△	△	×	×	4	3
エンゲージメント	△	△	○	○	×	×	3	3

※1 ○:0点 △:0.5点 ×:1点 として計算

※2 Step1でリストアップした目的との関連数

結論・今後のアクション

個人で仮定を用いて当社人事データの状況とデータ戦略の整理を行った。

- データ品質に差があることがわかった
- 各システム内ではデータ品質が高くとも、他システムとの接続性が低いことが分かった

本修了発表では個人でデータの状況の定義を行ったため、今後は組織として目的の整理と再検証を実施する。

本発表で整理した手法を用いてデータ品質を向上させ、データをもって“ヒト”の価値を最大化させる「戦略人事」を実現させることが最終目標である。